

神戸大学文学部・大学院人文学研究科創立 70 周年記念事業キックオフシンポジウム

「MANGA」—人文学研究の新展開—を開催

人文学研究科教授 副研究科長 鈴木義和

マンガは、私たちの現在を覆いつくしています。しかしその反面でマンガはとらえにくいものです。それは曖昧で散漫であり、娯楽だけでなく、広告、啓発、教育という多様な機能も帯びており、ありとあらゆる領域へ拡散し、国境やジャンルなど様々な境界線を容易に越えていきます。本シンポジウムは、こうした曖昧で脱境界的なマンガを「MANGA」と呼び、人文学研究の複数の視点から照らし出そうとするものです。1 日目のシンポジウムでは巨視的な視点から、2 日目の各セッションでは人文学研究の多様な領域から、MANGA の多様性を考えていきます。

現代日本文化の代表的なものであると目されているマンガ、及びアニメ、ポップカルチャーについては、徐々に研究が進みつつありますが、その姿を多角的に捉え、学問研究の対象として正確に位置づけるには至っていません。本シンポジウムでは、美術史、哲学、文学、映像学などの多様な研究分野の研究者がそれぞれの視点から、また、それぞれの視点を交差させながら、この新しく未開拓な研究分野であるマンガ、アニメ、ポップカルチャーに研究の光を当てようとするものです。

なお、人文学研究科では、今回の講演者である油井清光教授を中心に、国際共同に基づく日本研究推進事業として「日本サブカルチャー研究の世界的展開—学術的深化と戦略的な成果発信」を平成 22～24 年度に実施し、その後もこの研究を継続発展させてきました。また、人文学研究科倫理創成プロジェクトのアスベスト被害に関する研究の成果として、基調講演者であり著名な漫画家である竹宮恵子京都精華大学元学長との共著で『石の綿—マンガで読むアスベスト問題』を出版し、その中で「機能マンガ」という重要な観点が提示されています。本シンポジウムは、以上のような人文学研究科における研究の積み重ねのもとに実施されるものです。

□シンポジウム概要

○2019 年 3 月 2 日（土）14:00～17:00 神戸大学出光佐三記念六甲台講堂

・基調講演

竹宮恵子（京都精華大学元学長・国際漫画研究センター長）

「マンガの捉え方—マンガと現実社会をつなぐために」

青木保（国立新美術館館長・元文化庁長官）

「日本の「文化力」を考える」

・講演

王向華（香港大学現代言語文化部准教授）

「日本のポピュラーカルチャーのアジアでの展開」

油井清光（神戸大学大学院人文学研究科教授）

「文化としての日本ポップカルチャーの世界での浸透」

・パネルディスカッション

青木保／竹宮恵子／王向華／油井清光

司会：前川修（神戸大学大学院人文学研究科教授）

○2019年3月3日(日) 10:00~16:30 神戸大学大学院人文学研究科 A棟1階

【午前の部】

セッション1「日本美術史の中のマンガ・アニメ」

セッション2「戦後日本のマンガ・アニメにおけるアジア表象」

【午後の部】

セッション3「マンガとしての映像／映像としてのマンガ」

セッション4「機能マンガの可能性：日本とイタリアのアスベストマンガから考える」

(両日とも参加費無料・事前登録不要)

(シンポジウムHP)

<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/event/2019-01-21-01.html>

(問合せ先)

人文学研究科(教授・副研究科長)鈴木義和 TEL:078-803-5541、e-mail:yssuzuki@kcc.zaq.ne.jp

人文学研究科 総務係

TEL:078-803-5591、e-mail:lsoumu@lit.kobe-u.ac.jp